

企画展

令和4年

7.11(金) ⇒ 9.4(日)

あいち「相づち」合×植「アイズ」

チ名①鍛冶で、向かい合って交互に槌を打つこと。②相手の話に賛同して調子を合わせること。「一を打つ」

うで「腕」ウデ名①肘と手首との間。②肩と手首との間。手。③腕前。才能。力量。「一のよい職人」

④腕力。「すく」⑤腕木など、突き出したもの。⑥てこや、てんびりなどで支点から力点までの横棒。⑦「(×縫)り」をかける。腕前を發揮しようと張り切る。

おすみつき「お墨(墨)付(き)」オスミツキ名①室町・江戸時代、將軍や大名から家臣に与えた証明のための黒色の印を押した書類。墨付き。②目上の人からもらった文書。

おりがみ「折(り)紙(み)」オリガミ名①奉書紙や鳥の子紙を二つに折ったもの。目録や公式文書に用いる。②正方形の色紙(いろ)。また、それを折って遊ぶこと。③(刀剣などの)鑑定書。④保証。一付きオリガミのキ名①鑑定書が付いていること。②定評があること。保証付き。◎窮め付き。

がつてん「合点(點)」ガッテン名①自サ変⑦うなずくこと。承諾すること。②がてん。③「古」回状などに承知の意を示すために、自分の名の肩にしるしをつけること。④和歌・俳諧などでよい作品につける点。

かぶと「かぶと」×兜・×冑「カブト」名頭にかぶり、頭と首を保護する武器。「の緒」を締める。油断しないで用心をする。警戒する。「一を脱ぐ」降参する。

きわめ「極(め)め」キワメ名①限り。果て。②決定。約束。契約。③刀剣・書画などの鑑定書。目きき。④「付きキワメ」のキ名①書画・骨董などに極め書きの付いていること。②定評のあるもの。出所・品質などの確かなもの。◎折り紙付き。

さんびようし「三拍子(びょうし)」サンビョーシ名①「音」一小節が強弱弱の三拍で構成される拍子。②小鼓・大鼓・太鼓など、三種の楽器で拍子をとること。③三つの重要な条件。重要条件の全部。「一そろう」

じがじさん「自画(畫)自賛(自画自賛)」ジガジサン名・自サ変①自分が描いた絵に自分で賛をすること。②自分で自分のしたことをほめること。◎自画賛・自賛

しのぎ「しのぎ」×鎬「シノギ」名刀身の峰と刃との中間の小高くなっている部分。「一を削る」①激しく斬り合う。②激しく争う。

せつぱ「切羽」セツパ名刀の鍔が柄杓と鞘に接する所に添える

薄い金具。せつぱつままる「せつぱつまる」羽詰(ま)る「セツパツマル」自五。切どうにもしかたがなくなる。最後の土壇場になる。さしせまる。最後

つばぜりあい「つばぜり合い」×鍔「追合(あ)い」ツバゼリアイ名・自サ変①相手の刀を鍔で受け止めたまま押し合うこと。②同じようにな

でんか「伝(傳)家」デンカ名その家に代々伝わること。家伝。の宝刀(ほうとう)デンカノホトトギス名①家に先祖代々伝わっている、たいせつな刀。②だいたいな時以外はめつたに使わないもの・手段。奥の手。「一を抜く」

とうげん「桃源(とうげん)」トウゲン名《陶淵明(とうえん)の「桃花源記」の故事から》俗世間を離れた別天地。仙境(きやうじやう)。「一郷」

とうりゅうもん「登竜(とうりゅう)門」トリユウモン名《竜門と呼ばれる急流を鯉(こい)が登ると竜になるという中国の故事から》立身出世の関門。「文壇の」

ななつ「七(なな)ツ」ナナツ名①七。七個。②七歳。③昔の時刻の名。今の午前および午後の四時。「道具」ナナツドグ名①いつも持ち歩く、ひと組みにした身のまわりの品。②武士が戦場に臨む時に

のり「乗(のり)乗(り)」ノリ名①乗ること(もの)。②絵の具・おしろいなどがつく程度。「がよい」③謡曲で、うたいと拍子の合わせ方。より「より」×縫×燃「ヨリ」名よりすること。よったもの。「一の強い糸」

ギャラリートーク
会期中の
毎週土曜日14時から
学芸員による
ギャラリートークを
行います。



『角川新国語辞典』
(株)KADOKAWA

※辞典紙面はデザインされたものです。実際の『角川新国語辞典』とは異なる部分があります。

開館時間 ● 10時～17時(入館受付は16時30分まで)

休館日 ● 月曜日休館(祝日等休日の場合は翌日)

入館料 ● 一般500円 高校生300円 小・中学生無料

友の会会員、学校メンバー加入団体、障がい者手帳提示の方付添者▼無料 団体(20名様以上)シニアカード提示の方▼2割引

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-7-15
TEL (086)223-1733 FAX (086)226-3089
http://www.hayashibara-museumofart.jp

Facebook @hayashibara.moa / Twitter @hayashibara1964 / Instagram @hayashibara1964

関連イベント

「集まれことばの探検隊！」

こどもたちにとっての夏と言えば、そう「夏休み」。そして夏休みといえば、「自由研究」。今年の夏は美術館に来て、学芸員と一緒に言葉の探検をしてみよう。

日時◎令和4年7月23日(土)～8月27日(土)までの
毎週土曜日(計6回) 11時～(約1時間程度)
場所◎林原美術館展示室内 定員◎先着20名
参加費◎無料(入館料別途)

「書道パフォーマンス」

日時◎令和4年7月31日(日) 13時30分～14時30分
場所◎林原美術館屋外 ※雨天の場合ロビー
出演◎岡山県立岡山芳泉高等学校
書道部・美術部の皆様
見学無料(入館料別途)

「トークイベント」

岡山の老舗企業、三好野本店の社長として岡山財界で活躍する傍ら、公益社団法人岡山県文化連盟の会長の要職を務めるなど文化全般に造詣が深い、若林昭吾氏をお迎えしたトークイベントを開催します。軽妙洒脱なトークでマスコミなどでも活躍する若林氏の「ことば」がつつく、伝統文化についての楽しいお話を、展示会の担当学芸員とともにうかがいます。

日時◎令和4年8月21日(日) 14時～15時
場所◎林原美術館ロビー
出演◎若林 昭吾 氏(公益社団法人岡山県文化連盟会長)
テーマ◎「ことばが紡ぐ伝統文化」
定員◎30名(要予約) 参加費◎無料(入館料別途)

「チャリティーコンサート」

主催◎咲かそ横丁(代表 米倉 孝)
協賛◎林原美術館
日時◎令和4年8月27日(土) 開場18時30分 開演19時
出演◎米倉 孝氏(サクソフォン)
米倉 由起氏(作曲、キーボード)
藤野 敦司氏(ベース)
福田 和哉氏(ドラム) 他
場所◎林原美術館展示室内 特設ステージ
定員◎60名(当日、定員になり次第締め切りになります)
参加費◎チャリティー募金(入館料別途・2割引)



《白隱自画賛 芭蕉圖》 江戸時代



《色絵朝顔柴垣文七寸皿》 江戸時代

古美術

辞展

私たちが普段使う「ことば」には、伝統文化や故事に語源を持つものや、季節を感じさせる情緒豊かなものが数多くあります。しかし現代においては、習慣や生活様式の変化により本来の意味とは離れて慣用的に、また季節感なく使われることが多くなっています。

今回、株式会社KADOKAWA様のご協力をいただき、『角川新国語辞典』や季節をあらわす言葉を集めた『角川俳句大歳時記』などを紐解きながら、こうした「ことば」があらわす古美術をテーマとした館蔵の美術品をお楽しみいただけます。

「二人のしのぎを削る戦いは…」ニュースなどでよく聞く、ライバルが激しく争う際に使う言葉です。ところで「しのぎを削る」とは、何に由来するのでしょうか。国語辞典の「しのぎ(鏑)」の項を見ると「刀身の峰と刃との

中間の小高くなっている部分。一を削る①激しく斬り合う。②激しく争う」とあります。なるほど、語句の意味と刀剣が語源であることは理解できるのですが、「刀身の峰と刃との中間の小高くなっている部分」とは具体的にどの部分でしょうか?さらに、そこが削れるほどの戦いとは、どれぐらい激しいのでしょうか?

与謝蕪村の俳句「朝がほや 一輪深き 淵の色」の季語になっている「朝顔」、夏休みの観察日記のイメージが強いですが、歳時記をみると秋の季語になっています。ちょっと意外ですね。

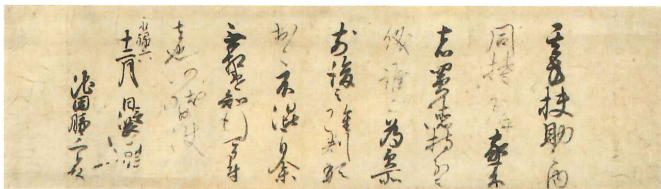
この展示会ではこうした「ことば」を切り口に、刀剣や装束、また書画など館蔵の様々なジャンルの作品を展示いたします。国語辞典や歳時記の解説文と美術品を見比べて、刀のしのぎが削れる戦いを想像したり、日々移ろいゆく季節を感じていただくなど、いつもと一味違った展示会をお楽しみください。



『新版 角川俳句大歳時記 夏』
※画像提供: (株)KADOKAWA



重要文化財 《芦水禽文縫箔》
桃山時代



《池田恒興宛 織田信長判物》 永禄6年(1563)

次回予告 特別展「令和の名刀・名工展」 令和4年9月30日(金)～ 11月27日(日)

同時開催 「岡山芸術交流2022(展示協力)」

主催:岡山芸術交流実行委員会 会場:ロビー・中庭(予定)

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15
TEL (086) 223-1733 FAX (086) 226-3089
http://www.hayashibara-museumofart.jp
*車椅子対応の設備あります。

交通

- JR岡山駅から徒歩25分
- 路面電車[東山行] 県庁通下車徒歩7分
- 岡電バス[岡電高屋行] 県庁前下車徒歩3分
- 宇野バス[瀬戸駅前行・四御神行] 県庁前下車徒歩3分
- 循環バスめぐりん[県庁医大線] 県庁前下車徒歩3分

【臨時休館について】「暴風警報」「特別警報」が発令されている場合は、臨時休館とさせていただきます。詳細はHPに掲載しておりますのでご覧ください。

【ご来館の皆様へお願い】当館では、新型コロナウイルスの感染拡大の防止に向けて各種取り組みを行っておりますが、加えて、ご来館の皆様には、マスクの着用、手指の消毒、両手を広げてお互いが触れない距離の確保、静かな観覧などの厳守をお願いいたします。詳細は当館ホームページをご覧ください、ご来館の際には館内の掲示や館員の指示に従ってください。

